

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都中野区弥生町 1-56-3 岩崎偉丈 夫庵 1F
園名	あーす保育園 中野新橋

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

散歩時に「これ赤い花」や「青い屋根」という色を含んだ言葉があふれていたのも、日常生活の中で親しみのある色をより身近に感じる為、また様々な探求活動の中で色への理解を深めたいと考えた為色をテーマに設定した

2. 活動スケジュール

8月：テーマ決め

合計7回(9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月)

- | | |
|-----------------|-----------|
| ① カラーセロハンの虫眼鏡 | 令和7年9月24日 |
| ② ブロック収納の見直し | 10月20日～ |
| ③ 絵具を使った感触遊び | 11月18日 |
| ④ クレープ紙を使った色水遊び | 12月17日 |
| ⑤ にじみ絵 | 1月21日 |
| ⑥ 色の玉を繫げよう | 2月12日 |
| ⑦ 色のトンネル | 3月5日 |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- | | | |
|---------------------------|---------|-----|
| ① カラーセロハン (赤、青、黄)、厚紙 | 1人1つずつ | 戸外 |
| ② 園のもので対応 | | |
| ③ 絵具、模造紙、透明な袋 | 3色用意 | 保育室 |
| ④ クレープ紙、調味料ボトル、透明カップ | 6色用意 | 保育室 |
| ⑤ 水性ペン、スポイト、半紙、コースター、画用紙 | 5名分 | 保育室 |
| ⑥ 食紅、半紙、画用紙、透明カップ、スポイト、バフ | 5名分 | 保育室 |
| その他 | 記録用パソコン | |

色に興味が出てきたときに色分けして収納したり、普段使っている玩具(ブロック・砂場用玩具)の色を増やし、より身近に感じられるように環境を工夫した

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

① カラーセロハンの虫メガネ

虫眼鏡を作り散歩に行き、虫メガネを使って様々なものを見てみた。この活動からカラーセロハンに興味をしめしていたので、ハロウィンや節分の製作にカラーセロハンを用いた。

② ブロック収納の見直し

レゴブロックを赤・黄・緑・青に色分けして収納する。

あそびの中でも色分けをして遊ぶ姿が見られるようになった。

③ 絵具を使った感触遊び

模造紙に絵具を垂らして袋をかぶせその上から足で踏み、感触や色の混ざりを楽しむ。

④ クレープ紙を使った色水遊び

容器にクレープ紙(赤・青・黄・緑・ピンク・オレンジ)と水を入れて色の変化を見た後に、透明カップに好きな色を移し替えて、色の混ざりを楽しむ。

絵の具とは違った透明感のある色水が出来上がった。

⑤ にじみ絵

画用紙・半紙・紙コースター・コーヒーフィルターに水性ペンを使って描き、スポイトを使って水を垂らして、にじんでいく様子や水の色がケンカしていく様子を体験する。

⑥ 色の玉をつなげよう (外部講師)

食紅で色付けした色水(赤、青、黄色)をスポイトやカップを使って混色を楽しむ。

⑦ 色のトンネル (外部講師)

様々な色のカラーポリ袋で自由に遊び、つなぎ合わせて作ったカラートンネルをくぐったり、装飾をしたりして楽しむ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

①「葉っぱが青く見える」「先生が青く見える」と色を通した世界を楽しんだ。カラーセロハンを使うと子どもたちは積極的にカラーセロハンを通して花や地面をみていた。友だちの服や自分の服を見たり、「この花何色に見える？」という保育者の声かけに応じて、花の観察をし、「青い花だ」「こっちの花も青」と言っていた。太陽の光で色のついた地面に興味を示し、楽しむ姿も見られた。

②子どもたちには何も説明はしなかったが、高月齢児は色分けされた入れ物に片づける際に、色分けされていることに気づき、色ごとに片付けをしていた。色に関係なく片付けをしていた児に対して、高月齢児が、「こっちだよ」と同じ色へしまうところを見せると、真似して色分けをしていた。低月齢児は、色分けに興味は示さず、色関係なくしまっていたが、「この色はどこかな？」という保育者からの問いかけによって気づきが生まれ、「これはここ」と色分けをおこなうようになった。

③足に絵の具がつかないか確認しながら「あれ？つかない」と不思議そうな表情が見られ、絵具の感触を楽しみながら絵具を広げていった。

絵の具が広がると、色同士を混ぜ合わせようと絵の具を動かす姿が見られた。絵具の量と絵具同士の間隔が広がったので、保育者が予想していた色のまざりは見られなかったが、子どもたちは、指を使って一生懸命色を動かして色を混ぜようとしていたのが、新しい発見となった。途中ビニールが破けてしまったが、破れたことや指に色がついたことも気にしないくらい集中していた。

④これまでの活動のなかで1番楽しんでいた活動だった。クレープ紙の感触を確かめてから、水にいれて、透明な水が変化していくようすをみた。予想していたより色は薄かったが、色の濃い青では、「青になってる」と色の変化をかんじていた。「トイレットペーパーはどうなる？」という子どもたちから問いかけがあり、実際にトイレットペーパーを水の中に入れて観察した。「変わらない」「透明のまま」と色水にはならないことを体験した。好きな色を透明カップへ入れ、色の混ざりを楽しむなかで、「にじいろジュースです」「麦茶の色になった」と色が混ざった様子を言葉で表していた。青が好きな児は、青だけを使い色を混ぜ合わせることはなかったが、まわりの児の様子をみて、少量ずつ色を入れて混ぜ合わせていた。最後は、大きな洗面器用意して、何色になるか予想しながらすべての色を混ぜた。「にじいろになる」と予想し、すべての色を入れ終わると、「茶色だ」「麦茶の色になった」と言っていた。

⑤様々な素材をさわって、半紙を触ると「これはくしゃくしゃ」と表現していた。水性ペンで自由に描いたあとにスポイトを使って水を垂らした。半紙では水がしみこみ色が徐々ににじんでいく様子を見ることができ、画用紙では、垂らした水が画用紙にたったことで、「色が変わってる」「青になった」と水に色がついていくことに気づいていた。

⑥準備段階からわくわくした表情をしていた。1色ずつ垂らしたり、つなぎ合わせたりして色の変化を楽しんでいた。色水を垂らすほかに、すべてを混ぜ合わせて「黒になった」と色の変化をみたり、友だちの真似をして同じことをやってみようとする④で行った色水遊びとは異なる道具、やり方で色に親しみ、とても楽しんでいた。また色水に水を入れると色が薄くなることや、混ぜ合わせて黒に見えた色水をスポイトで垂らしてみると、「あれ？青に見える」と黒ではないことや、友だちと同じ黒だと思っていても異なる色だったことなど新たな発見ができた。子どもたち自身が気になったことややってみたいと思ったこと思いきり探究することができた。

⑦カラーポリ袋を触ったり、形をみたり、身につけたりして「つるつるしてる」「レジャーシートみたい」「エブロンみたい」といった表現が子どもたちから聞くことができた。ポリ袋は切れるのか？と疑問に思った児は、ポリ袋を引っ張っていった。ポリ袋が伸びていく様子は「スライムみたい」と表現していた。1人の疑問がまわりにも伝染し、同じことを体験していた。トンネルに入って進んでいくと、色が変わる様子も体感しながら、体を動かして遊ぶことを楽しんでいた。「マントにしたい」というこどもたちからの提案で、マントにして走り、ポリ袋の引っ張り合いも始まった。どこまでのびるのか？伸びた後は、「クモみたい」「へびだ」と言う姿がみられた。子どもたちの探究心が存分にあらわれていた。



活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。
 (HP などで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・様々な素材に触れながら、色に親しむことができた。
- ・活動で感じたことを保育者や友だちに自由に表現していたことが、友だちの真似をしてやってみようとする気持ちにつながっていた。
- ・クレヨンでも色を混ぜ合わせて塗っていたことから、色水遊びでは、色の混ざりがより鮮明に見ることができて、長時間楽しむことができた。外部講師も含めて数回色水遊びを行っていたので、回数を重ねるごとに新たな発見をすることができた。（友だちと同じ色に見えても透かして見たり、紙に垂らすと全く異なる色だった）
- ・活動を通して、子どもたち自身で“面白いこと”や“こうしたらどうなるんだろう”を見つけて、問いかけや、やってみようとする姿をたくさん見ることができた。子どもたちが感じた問いを存分に探究することができる環境や、やってみようとするきもちを引き出す工夫が大事だと感じた。